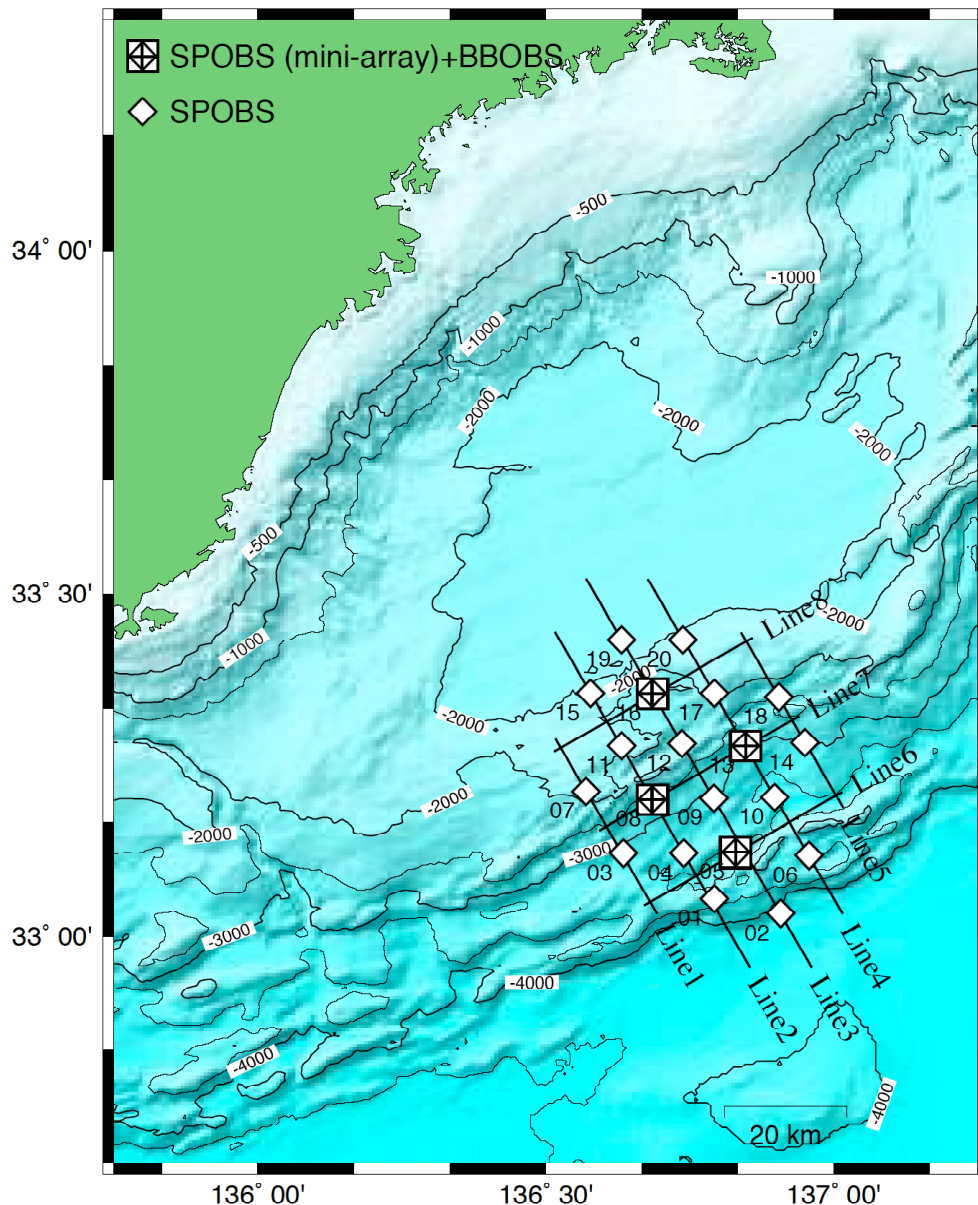


クルーズサマリー

1. 航海情報：

- (1) 航海番号・使用船舶：KY08-06・かいよう
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成 20 年度「紀伊半島沖南海トラフ自然地震観測調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：尾鼻浩一郎・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：尾鼻浩一郎・海洋研究開発機構
- (5) 研究課題名：
受託研究「南海トラフ巨大地震連動性評価」
南海トラフ付加体先端付近で発生する低周波地震の震源像の解明
- (6) 航海期間・出港地～帰港地：
平成 20 年 7 月 24 日～7 月 31 日・海洋研究開発機構（横須賀）～横須賀新港
- (7) 調査海域：紀伊半島沖南海トラフ
- (8) 調査海域図：



2. 実施内容：

(1) 目的：

海洋工学センター海底地震・津波ネットワーク開発部（DONET）と地球内部変動研究センター（IFREE）では、文部科学省から「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」の個別研究テーマとして「南海トラフ域海域地震探査・地震観測」を平成20年度より受託している。本調査はその一環として実施される。本研究の目的は、紀伊半島沖南海トラフの付加体先端部付近で発生している低周波地震や微動を含む地震活動を把握するとともに、その震源像を明らかにし、沈み込み帯の地殻構造や巨大地震発生との関係解明に資することである。この目的を達するため、海洋調査船「かいよう」によって短周期および広帯域海底地震計を紀伊半島沖の南海トラフ海域に設置する。また海底地震計設置後には、海底地震計の位置決定と浅層構造の把握を目的とした、SCS調査を行う。

(2) 実施項目：

1) 短周期海底地震計 36 台の設置

短周期海底地震計 36 台を、約 10 km 間隔で 20 観測点に設置した。このうち、4ヶ所では、短周期海底地震計 5 台で構成される小アレイを設置した。

2) 広帯域海底地震計 4 台の設置

短周期海底地震計 5 台による小アレイ 4ヶ所の近傍に広帯域海底地震計の設置を行った。

3) シングルチャンネル音波探査（SCS）

海底地震計の精密な位置と海底地震計直下の浅層構造把握の為に、8本の測線でSCS調査を行った。

4) その他

シービームによる海底地形調査を実施した。また、音速補正用に XBT を 1ヶ所で実施した。